

2017年10月22日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 11章 1～18節

説教：いのちに至る悔い改めを与える神

はじめに

イエス・キリストが墓からよみがえり、弟子たちの前に現れてくださったとき、このように言われました。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使徒1章8節) その約束のとおりペンテコステの朝、聖霊がくだり、エルサレムに世界で最初のキリストの教会が建てられていきます。迫害が激しくなったとき、人々はエルサレムから地方に逃れ、行った先でもイエス・キリストを証ししていきます。そこでも信じる者たちが湧き出され、あちこちに教会が建てられていきました。このようにしてイエスが語ったとおり「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土で私の証人となる」というみことばが成就していきます。

しかし、「および地の果てにまで」というところ、つまり異邦人も救われるということはまだ起きていません。それがどのようにして成就していったのか、そのことを見て参ります。ここは前回からの続きでもあるので、今日の所を見る前に少しおさらいをしておきます。

1 割礼を受けている人たちからの非難

1) 異邦人たちも神のことばを受け入れた

地方に建てられた教会はまだ生まれたばかりです。組織がきちんと整っていませんし、指導する人も足りません。そこで、エルサレムにいた十二人の使徒たちが手分けして地

方の教会を巡回して、教えることにする。ペテロはヨッパの町の教会を指導する担当になりました。それでヨッパにしばらく滞在していました。事件が起きたのはそのときです。ペテロのところに、突然三人のローマ兵が訪ねてきて、いますぐカイザリヤに駐屯しているローマ軍の百人隊長であるコルネリオの家まで来て欲しいと告げます。ペテロはしばらく行くかどうか迷うのですが、とにかく行ってみることにした。コルネリオの家に着くと、ペテロは「いったいどういうわけで私を招いたのか」と尋ねます。すると、コルネリオはかくかくしかじかの事情で招いたのですと説明をする。それを聞いてペテロは全て納得し、すぐにイエス・キリストの話をはじめました。そうしたら聞いていた人々に聖霊が降った。それを見て、ペテロはすぐに洗礼を授けるようにと兄弟たちに命じました。これが10章までのあらすじです。

2) 問題：割礼を受けない者と食事をした

このことはエルサレム教会にも伝わり、大変な騒動となります。早速、事件真相究明委員会が立ち上げられ、ペテロに尋問することにします。それが2, 3節です。「ペテロがエルサレムに上ったとき、割礼を受けた者たちは、彼を非難して、『あなたは割礼のない人々の所に行って、彼らと一緒に食事をした』と言った。」

エルサレム教会は何を問題としたか。ユダヤ人の律法によれば、割礼を受けた者は、割礼のない人たち、すなわち異邦人のことで

が、彼らと一緒に食事をしてはならない、そういう決まりがあった。ペテロはその律法を破って、ローマの軍人コルネリオの家を訪問し、食事をして宿泊までした。もし本当ならば懲罰委員会にかけて、ペテロを教会から除名しなければならない。それくらいの重大問題となっていました。

2 ペテロ

1) 順序正しく

私たちも時々失敗します。雰囲気にも飲まれてしまい、事の成り行きに身を任せて、やってはいけない事をしてしまい、やってしまったから、自分は大変な事をしてしまったと後悔した。そんな経験です。親や先生にどう説明するか。頭を抱えてしまうわけです。

ペテロも周りの雰囲気にも飲まれてやってしまったのか。そうではない。彼は実に周到的な準備をしています。ペテロはいま自分がどんな立場に置かれているか冷静にわきまえています。エルサレムに戻れば委員会に呼ばれるだろう。それほど自分は微妙な問題の中にいるとわかっています。

それで彼はどうしたか。二つのことをしています。まず一つ目。4 節。「そこでペテロは口を開いて、事の次第を順序正しく説明して言った。」

なにも特別なことはしません。順序立てて説明していきます。まず自分がどんな経験をしたか。コルネリオはどのように語ったか。そこで何が起きたのか。淡々と事実をそのまま語っていきます。自分を非難するような厳しいことばを聞いてしまうと、しどろもどろになってうまく説明できず、ますます火に油を注ぐということがあったりします。ペテロは違います。どう説明するべきかあらかじめ

準備しています。それも、都合の悪いことは隠すとか、都合の良いことはふくらませるとか、そんなことはしない。事実をそのまま語ります。なぜそうできたのか。自分は絶対に正しいという自身があったからか。いや、そうではない。主が建ててくださった教会です。その教会が下す判断。それに従うという覚悟をしています。すべては神がなさることとしてゆだねています。

2) 六人の兄弟たちも同行した

ペテロがしたことの一つ目。12 節にあります。「そして御霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行くように、と言われました。そこで、この六人の兄弟たちも私に同行して、私たちはその人の家に入って行きました。」

ペテロはひとりでコルネリオの家に行ったわけではありません。ヨッパにいた六人の兄弟を連れて行った。その六人は、この真相究明委員会には、ペテロに同行した六人が出席していた。これはどういうことでしょうか。

ペテロはこう証言しています。繰り返します。「御霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行くように、と言われました。」いったい、だれがこれが本当であると証明するのでしょうか。だれもいません。御霊が語る声は、ペテロしか聞いていない。ペテロが嘘をついていると言われても反論できません。そこでペテロは六人の兄弟を連れて行きます。外から客観的に評価できる人たちを連れて行って、一部始終を見てもらう。そのようにしました。

それでも、疑り深い人はそう思うかもしれません。この六人はペテロの息がかかっている人たちではないか。聖書はその点について

きちんと記している。10章45節。「割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。」

この六人は、ペテロを盲目的に信じているイエスマンでは決してない。むしろ批判的な目で見ていました。その彼らでさえ、目の前で異邦人にも聖霊が注がれるということを見て腰を抜かすほど驚いた。ペテロは、ペテロの行動に批判的な人々を連れて行き、証人とした。それが彼のやったことの二つ目となります。

3) ユダヤ人も異邦人も同じ賜物をいただく

委員会は、ペテロの証言を聞き、それが嘘ではないことを六人の兄弟たちから確認した結果、次のような結論に達しました。18節。「『それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ』と言って神をほめたたえた。」

これで問題は一件落ち着きました。ここで興味深いことがあります。エルサレムの教会は、当初、ペテロが割礼のない異邦人といっしょに食事をしたことを問題であると告発しました。ところが、ペテロの話聞いて到達した結論は、「神はいのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになった」、です。よく見比べてください。ペテロを告発した容疑と、判決とかかみ合っていないように見える。でも良く考えると理屈は合っています。17節にそのヒントがあります。「私たちが主イエスキリストを信じたとき、神が私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら」とあります。神はユダヤ人と同じように異邦人も救われる。ユダヤ人と同じように異邦人にも聖霊の賜物を与える。も

しそうなら、どうなるか。この世界にはユダヤ人も異邦人もなくなってしまう。何の区別もなくなる。ユダヤ人は異邦人といっしょに食事をしてはならない、と言っても、この世界には異邦人がいなくなるわけですから、律法は意味がなくなってしまう。そういうことになります。

4) 神のみわぎを確認する

神はどのように働かれる方でしょうか。確かに不思議なみわぎをなさいます。しかしいっぼう、不思議なわぎを見たから、それが全て聖書の神から来していると頭から決めてかからない。慎重に検証していきます。

また、もしかして、あるひとりの人に神が語りかけるということも起こるかも知れません。そのときどうするか。ペテロのしていることが見本です。客観的な事実をつきあわせて、ひとつひとつ、神が何をなさっていたのか、まるでパズルのピースをつきあわせるかのようにして、確かめていく。もし本当に神のみわぎであるなら、必ず、私たちはこれは神のみわぎであると納得し、一致できます。もし少しでも疑わしいという思いがあるのなら、ゆっくりと時間をかけて判断する。そこに御霊が働きます。教会は一つとなっていくます。

3 いのちに至る悔い改め

その聖霊について最後に確認します。

エルサレム教会はこのように告白しました。18節。「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。」なぜこのような結論に達したか。異邦人にも聖霊が降ったという事実を見たからです。ペテロに同行した割礼を受けていた六

人の兄弟が、それを見て驚きました。ペテロは、コルネリオの家で異邦人に聖霊が降ったのを見て、イエスが天に上げられる前に弟子たちにお語りになったみことばを思い出しました。「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によってバプテスマを授けられる。」(使徒1章5節)

イエスは「あなたがたは」と言いました。ペテロを初め、多くのユダヤ人たちは、「あなたがたは」とは、ユダヤ人のこと、と解釈していました。けれども、いまそれが間違いであることがわかった。「あなたがた」とは、異邦人も含んだすべての人を指す。あらゆる人々に分け隔てなく、神は聖霊を与えてくださる。

ではいったい、聖霊はだれに降るのでしょうか。エルサレム教会の告白から明らかです。罪を悔い改める者の上に降ります。これが約束です。みなさんはどうですか。皆さんは聖霊をいただいているのでしょうか。自分ではおそらく自覚はないはずです。今の時代、不思議な現象はほとんど起きないかも知れません。自覚はないし、不思議な現象も起きない。ということは、この時代、もう聖霊は降ってこないのか。

そんなことはありません。聖霊はいまも同じように働いておられます。それがどのようにしてわかるか。自分ではわからなくても、周りの人たちが見てわかります。ある方が罪を告白し、悔い改めの祈りをされるときがあります。それを見て、その祈りを聞いて、私たちははっきりとわかる。この方にいま聖霊が働いておられる。そのような姿を見ることは、ほんとうに幸いです。周りの人たちに恵みが注がれます。その方は、神からののちをいただいている。その方だけに神が働くので

はない。教会も励まされていく。これが聖霊の働きです。神はこのようなことをしてくださる。この神に私たちは罪を言い表していきたいと願います。